



釧路湿原森林ふれあい推進センター

釧路湿原森林ふれあい推進センターでは、森林環境教育や森林ふれあいの取組を北海道釧路総合振興局森林室等と連携して実施しています。今回はその一部を紹介いたします。

木育交流会 in 弟子屈

この催しは、「北海道・木育フェスタ2018」の一環で、子どもたちが、森と木にふれあう機会を通じて交流を深め「人と森林との関わりを主体的に考えられる豊かな心を育むことを目的に、北海道と国有林が連携して取り組みました。



木の名札づくりの様子

今回は、2日間の日程で行われ、根釧西部森林

管理署と当センターは、木の名札づくりや森林整備作業の見学等を担当しました。

「木の名札づくり」では、初めて会うお友達の名前がわかるように、カラマツ・イヌエンジュ・シラカンバ・ハシドイ・バッコヤナギ等の輪切りから好きなものを選び、名前やイラストを描きました。

子どもたちは、木口の色や年輪等を眺め、どれにしよかと悩んでいました。シラカンバの気が高かったようです。



林業機械に興味津々

また、「森林整備作業の見学」では、カラマツ伐採のデモンストレーションやアタッチメントの説

明の際、高性能林業機械に興味津々で、子どもたちは機械を間近で見ようと近づいていました。

子どもたちからは、「木がどれだけ大切か、わかった。」や「木の勉強も意外といい。」等の感想がありました。

初任段階教員研修

この研修は、以前から北海道教育庁が、採用3年目の教員を対象に実施しているものです。昨年からは、釧路総合振興局森林室と国有林が連携して企画を練り、3日間のカリキュラムのうち、根釧西部森林管理署と当センターが、森林整備作業の見学や木育体験等を担当しました。

「森林整備作業の見学」では、現在パイロットプロジェクトで素材生産を実施している林業事業体の協力を得て、高性能林業機械による伐採・枝払い・測尺・玉切り（材を一定の長さに切りそろえ

ること）のデモンストレーションが行われ、大きなカラマツがあっという間に倒れ、丸太になっていく工程に、研修生から驚きの声が上がっていました。

当センターは、森林環境教育等の取組の紹介として、タネや樹木と葉、動物について解説するとともに、ロケット・ラワンづくり等を通じて、色々なタネの飛び方や運ばれ方を実感していただきました。



タネの仕組みを解説

当日は猛暑の中、また、慣れない森林での木育体験等となりましたが、この研修を通じて森林環境教育や木育に、取り組むきっかけとしたいだければと考えています。